

### 4つの班の主なテーマ 等

班の名称	班長	副班長	主なテーマ
きずなの会	小沢 正順	鈴木弥一郎 石井 賢司 宇山 慎一	身近な地域の課題を解決するために地域の中で助け合いのできる組織(体制)づくりなど
ほうさんかい 豊山海	寺山 和彦	星 正芳 加藤 博昭 小滝たか子	豊かな山・海の自然や地域の歴史・文化、畑、野菜、海を結びつけたウォーキングルートづくりなど。
千倉港・海の里づくりの会	宇山 暁	鈴木 徳喜 高木 洋道 田中スエ子	港に活気を取り戻すために漁港施設を活用したイベント等の開催など。
高家 学ぼう会	堀江 洋一	山口 常道 奥田 義彦 山口 旭子	料理の神を祀る高家神社の起源や歴史を学び、特産品開発(地域ブランド)で地域づくりにつなげるなど。

### イベントコーナー

#### 高家神社 梅見会 (谷津区)

2月12日(土) 13日(日)  
午前10時～午後3時



会場：高家神社 境内

催し物：  
農産物等の直売、  
野点、甘酒・おしるこ、  
いそべ焼、古代米赤飯、  
古代米大福の販売

#### 包丁式

13日(日) 正午より包丁殿にて、包丁式が行われます。

式 題 梅見の魚  
主催者 高家包丁会

#### 稲荷神社 初午 (平館区)

2月7日(月)  
正午より



祭神 倉稻穂命

2月最初の午の日が初午で、米の神様を祀り、巫紀の豊穰を祈願します。参道に店が立ち並び、多くの参詣者にぎわいます。福引がありますので、今年の幸運を是非引き当ててください。

# ちくらだより

きょう どう  
協 働  
つう しん  
通 心

発行：南房総市千倉協働推進室 企画編集：千倉担当地域づくり支援員  
〒295-8601 南房総市千倉町瀬戸2294番地(南房総市千倉支所内)  
TEL: 0470-40-0540 FAX: 40-1013  
メールアドレス: chikura@royal.ocn.ne.jp

平成23年1月  
第6号



(4つの班に分かれ、各班の班長・副班長を決め、今後の活動方針などについて話し合いが行われました。)



## 千倉地域づくり協議会設立に向けて 設立準備委員会が発足しました

第四回目の「ちくらの地域づくりを考える会」が、十二月九日に千倉保健センターで開催されました。まず初めに地域づくり協議会設立に向けて、今後の進め方や組織体制について話し合われました。  
次に前回までに絞り込んだテーマ毎に四班に分かれ、班長副班長を決め、今後の会議の頻度、次回会議日程などについて話し合いが行われました。

#### 設立準備委員会

四つの班の班長、副班長の互選により、設立準備委員会の正副委員長が決定しました。



副委員長 宇山 暁さん



委員長 堀江洋一さん



副委員長 小沢正順さん



副委員長 寺山和彦さん

# ちくらの地域づくりを考える会に参加して



平舘区 田中スエ子さん

「昔の千倉は、良かった。一港には数十隻の大型漁船が停泊し、漁師も、勝山、岩井、富浦等々から千倉に働きに来ました。鯖漁で活気づく港には、威勢の良い掛け声が飛び交い、共に働く老若男女で溢れていました。浜は潤い、年の瀬になると、船主から「仕着せ」といって、衣服や自転車等が乗組員に支給されました。また、海が時化ると、漁師がそれぞれの馴染みの飲食店に繰り出して賑わい、街にも活気がありました。」

「後ろばかり振り返ってはいけません。前には進みません。こよなく千倉を愛し、「何とかしなくては」と本音と願を込めて組織されたのが「ちくらの地域づくりを考える会」だと思えます。(株)石塚計画デザイン事務所石塚雅明先生のご指導により、「どうしたら?」「何を千倉の街の活性化につなげるか」と、八班のグループに分かれ「KIT法」によって「ワークシヨップ」を始め、各自それぞれの意見をカードに書き出し、さらにテーマを絞り込み、最終的に残ったカードに書かれた意見をその班のまとまった意見として発表しました。八つに分けられた班の意見は多種多様でした。でも、誰もが真剣に千倉の将来を考えました。」

しかし、街づくりは、私達数十名で智恵を絞ってもどうにもなりません。活気のある街づくりは、この街に住む人全員で考えていかななくてはなりません。若い人が夢を持って働ける地域、子供達が安心して育める場所づくり、老人にとっては、「終の住処」となるような街、温暖で農産物のおいしく戴ける処を最大限利用できる街づくりに想いを馳せて居ります。」

## 新年に行われた「大漁招福祈願のみかん投げ」



1月2日、千倉各港で「大漁招福祈願のみかん投げ」が行われました。今回は、白間津地区を訪れました。陸に上架(じょうか)してある船、港に係留してある船から次々にたくさんのみかん、お菓子、タオル、福袋などが振舞われました。国旗と大漁旗がはためく快晴の空の下、港には、笑顔と歓喜の声が満ちていました。



忽戸区 星 正芳さん

私は、千倉町忽戸に生まれ、今年で古希を迎えました。高校卒業後京都で一年僧堂生活を送り、その後東京へ出て大学時代の四年間過ごしました。千倉を離れたのはこの五年間だけでした。どこへ行ったのか。現在の静けさには危機感さえ覚えます。今回ちくらの地域づくりを考える会が発足することを知り、何かお手伝いができればと参加しました

すでに地域の人達の中には「たのくろ里山保存会(川戸区)」「磯花の会(平磯区)」「谷津地区活性化グループ」「上瀬戸さんあーるの会」等地域活性化活動が進められています。千倉全体を活気ある街に再生するには住民の皆様が現状の生活形態を守りながら、今の自然を生かし、無理なく漁業あり、農業ありの生活の中で新しい「ちくら地域」の活性化を考え、実践することだと思います。特に今後は「今やれること」を中心に実践行動すべき時で住民全員が一つになって協力し合う時だと考えます。



「温故知新の心を大切に」  
南千倉区 武内章さん

どの地方にも市史があり、町史がある。乏しくても、心豊かに暮らしてきた祖先の知恵を学び、知識を得る事は大変重要である。



本町にも立派な町史があり、元千倉町郷土史研究会の皆様が長年苦勞して研究された傑作「郷土史」が刊行されている。内容は実に豊富で充実しており、郷土の自然の美しさ、豊かさ、産業、経済、文化、芸術等を始め、先人の生活の知恵、創意工夫を凝らした、貴重な宝物と言える内容が満載されている。これらを熟読する事により、新たな知恵が生れるのではないだろうか。

新しいことを考える事は、古いものを多く知る事にある。海、山の自然美、食生活に直結している田・畑・港、更に文化財の神社、仏閣、彫刻の偉人・後藤義光、郷土の美談中国船「元順号」の救助。昭和三十九年から歌われ愛されてきた千倉音頭、千倉小唄。そして平成十四年成人式にて披露された小林亜星作詞・作曲の「潮騒の里」等各分野の宝物が数多く、地下深く埋まっているように思う。これらは極一例であるが、現在ではさほど生かされていないように思う。このような宝物を掘り起こす事により、地域づくりの答えが見出されると確信する。

## あたまうつつ なせふじにやごまか



社い  
神舞  
保子  
久獅

忽戸区 宇山慎一さん



「ちくらの地域づくりを考える会」に参加して、分厚い間接部門の関係者と共に、私たちの生活環境に対する変化が生まれ、一人ひとりの誇りが持てるような生活ができる思想性を感じています。

まず各班ごとで課題に取り組み、コンセンサスが固められ、関係者の全員が会議、発表を積み重ねて、すぐにでもコンセンサスに応じた体制を組むことができる関係者全員の気持ちを感じます。さらに、ちくらの自信を回復することに繋がる地域づくりを考える会ではないでしょうか。

私たちが現在の千倉村生活者が、地域に対して人工的・育てる自然環境を再確認し、隣近所の幸福を祈り、例えば各地域での生活的な困り事、老後の安全性、その他諸々を確認して社会的絆と誇りを回復する事を目標として行動して、人生を楽しんで生活する事で、交流の輪が広がれば、ちくらがにぎやかにになります。そして何よりも子供たちに道徳人生の基本を勉強してもらおう事ができます。

たとえば、文化とか教育、道徳といったものにかける真空部分を見つけ、ちくらのスタイルを作り、生計を立てていく事も重要なことだと思えます。

現在ある観光部門の産業を利用し、地域に修学旅行の学生を誘致して教育体験でちくらを訪れる人が非常に増える地域が活性化してトータルするとかなり大きなマーケットができてきます。

まったく新しい産業開拓ということでは経済の活性化に役立つと思いません。



中学生教育旅行  
「千倉町での海士体験」の様子